

汚泥処理プロセスに関する技術情報の作成に伴う調査

全体期間

1995.1～

(目的)

下水道整備の中心が大都市から中小都市に移行するのに伴って、集水方式及び処理方式も標準活性汚泥法と異なる水処理施設を建設する都市が増加している。また、維持管理体制も24時間体制から昼間運転に移行している。これに伴って、発生する汚泥の性状が変化してきていると同時に、汚泥処理を取りまく諸条件も変わりつつある。

汚泥処理プロセスは、終末処理場の中でも重要な役割を担っているプロセスでありながら、前述の変化に対応した体系的な技術情報が得られていないのが現状である。

本業務は、汚泥処理プロセスのうち主要な設備である濃縮、脱水、焼却、脱臭プロセス等に関する技術情報を定常的に収集し、今後の設計諸元値の見直し等における基礎資料とするものである。

(結果)

平成6～7年度に得られたデータをもとに、集計及び検索するためのソフトの開発を行い、以下の業務を行った。

1. 下水処理場の主要施設及び主要機器（22項目）のデータ整理

日本下水道事業団からの受託研究

研究担当者：高橋 賢治、梅澤 光夫、川俣 利明

キーワード

汚泥処理、濃縮、脱臭